

平成 22 年 5 月 14 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19390552

研究課題名（和文） インターネット情報に翻弄される患者、家族を支援する看護職のためのeラーニング開発

研究課題名（英文） Development of E-learning program for nurses to support the patients and the families confused by information on the internet

研究代表者

中山 和弘（NAKAYAMA KAZUHIRO）

聖路加看護大学・看護学部・教授

研究者番号：50222170

研究代表者の専門分野：保健医療社会学、看護情報学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：ヘルスリテラシー、保健医療社会、Web、看護情報学、消費者健康情報学、保健医療情報学、ヘルスコミュニケーション、意思決定支援

1. 研究計画の概要

患者や家族がインターネット上の健康情報でどのような問題や困難に直面しているか、そしてそれに対して医療者はどのような支援が可能であるかについて明らかにする。それをもとに Web の情報に翻弄されず、むしろその情報を活用できるための看護職および患者・家族・国民のヘルスリテラシーの向上を支援する Web コンテンツを作成する。完成したコンテンツの看護職と市民による評価を行う。

2. 研究の進捗状況

患者や家族がインターネット上の健康情報でどのような問題や困難に直面しているかについて、利用者参加型の Q&A サイトとして「OKwave」での相談事例を対象とした。そのなかから、「ネットを調べたり、質問して回答を得たことで生じたと考えられる問題、ネットを利用した被害の事例」、より具体的には「質問者自身や周囲の人が客観的に健康などに悪影響がある場合」「質問者自身や周囲の人が心理的な訴えがある場合」を抽出した。

質問事例は 18 種類に分類できた。全体として多く見られた事例は、「情報による混乱（調べるほど何がなんだかわからなくなった、不安が増したなど）」「情報の理解力（調べてもわからない、理解できない）」「情報

収集力（ネットで調べても見つからない）」「ネット情報による医療者との関係（主治医は、ネットで調べた事をいっても信用してくれない、言えないなど）」などであった。

これらをもとに作成しているコンテンツは 2 つである。1 つ目は、患者や家族などが、Web 上の情報によってかえって混乱した事例について、それがいつ、なぜ起こり、いかに支援可能なのかを明らかにする事例集あるいは問題リストであった。この事例集では、Web の検索時期は症状や兆候の経験前から出現後の対処方法、医療機関への受診後、治療の前後まで幅広く多岐にわたること、医療者または Web からの情報と自分の知識や経験との整理・統合に困難が生じていたこと、医療者と患者・市民は一時点でのかかわりのため、その合間に不明点や疑問を Web で調べていることを認識する必要があることが明らかとなった。

2 つ目は、看護職と市民向けに、EBM、ヘルスリテラシー、ヘルスコミュニケーション、ヘルスプロモーション、ストレスコーピング、ソーシャルキャピタルなどの研究成果をわかりやすく解説したものである。また、これらのコンテンツを評価するために幅広いヘルスリテラシー尺度の開発を開始した。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

(理由)

患者や家族がインターネット上の健康情報でどのような問題や困難に直面しているかについて、明らかにし、それをもとに Web コンテンツを作成中で、それも年度前半には完成の見込みで、年度中盤には評価を行える予定である。

4. 今後の研究の推進方策

引き続き連携研究者とともに Web コンテンツの作成を進めるが、その中間評価として、6 月に看護職や市民を含めた社会人を対象とした大学での講義で、それらのコンテンツを仮公開して評価を受ける予定である。この評価をもとに修正・追加を検討して改善をすすめたい。

5. 代表的な研究成果

〔雑誌論文〕(計 2 件)

1. 中山和弘:ヘルスリテラシーとヘルスプロモーション.病院,査読無、67(5), 394-400, 2008.
2. 中山和弘「看護情報学」としての消費者健康情報学へのアプローチの試み;新たな看護の役割の構築に向けて .看護教育、査読無、48(1): 65-69、2007.

〔学会発表〕(計 8 件)

1. NAKAYAMA, Kazuhiro, NISHIO, Arisa, YOKOYAMA, Yukari, SETOYAMA, Yoko, TOGARI, Taisuke YONEKURA, Yuki: When and Why Do People Post Questions about Health and Illness on Web2.0-based Q&A sites in Japan?, 10th International Congress on Nursing Informatics, 2009.6.30, Helsinki
2. 中山和弘, 西尾亜里砂: Web2.0 型 Q&A サイトにおける Web のがん情報に翻弄される患者・家族の事例の分類. 第 67 回日本公衆衛生学会総会, 2008.11.6、福岡
3. 中山和弘, 戸ヶ里泰典: 利用者参加とオープン志向が特徴の Web2.0 型 Q&A サイトにみるヘルスコミュニケーション. 第 66 回日本公衆衛生学会総会 2007.10.25, 松山

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

〔その他〕ホームページ